

◇第2回 経済地理学会賞選考結果について◇

経済地理学会賞選考委員会

受賞者名：影山穂波

受賞著作：『都市空間とジェンダー』（古今書院，2004年，197ページ）

受賞理由：

これまでの経済地理学の研究のほとんどは「生産空間」を対象としており、「再生産空間」（家族、住居、コミュニティ）については、ジェンダー関係の視点に基づいて正面から問い直すことはなかった。こうしたなかで本研究は、ジェンダー研究に空間視点を導入することを主張して、特に女性をめぐる「居住空間」をテーマとしている。著者による「居住空間」とは、建物としての住宅を基盤として生活行為が展開される空間であるとともに、家族にとどまらず居住を通じて作られていく人間関係によって支えられた近隣コミュニティにまでわたり、文化を形成していく市民の営みの総体をも含む空間である。

実証の核心部分の1つは、戦前に建設された同潤会・大塚女子アパートで、そこを舞台に「職業婦人」をめぐる当時の言説の分析と、近年までの居住者の「語り」に基づいた調査を通して、厳格な規律が管理人からも住民からも要請され、プライバシーが尊重されつつも、コンサートなどの交流の場や自治的運動が存在したことを浮かび上がらせている。

もう1つの対象・横浜市港北ニュータウンでは、「専業主婦」が画一的で住機能に特化した郊外団地に隔離されながらも、環境保全やイベント、生協、PTA、政治活動などの地域活動を通じて、自治会とは異なる選択的な人的ネットワークを形成していることが論じられている。

このような詳細な実証研究を通して、「ジェンダー化された」態様に対して、行為主体が異議申し立てをし、従来の「ジェンダー規範」に基づく関係性を組み換えていくことが明らかにされる。こうした切り口による本書は、「都市空間」に対する経済地理学研究の新しい研究成果として高く評価することができる。

以上の理由により、経済地理学会賞選考委員会は、受賞著作が、内規第2条で規定される対象著作のなかで最も優れたものであると判断し、影山穂波会員を第二回経済地理学会賞受賞候補者として推薦する。

経済地理学会賞選考委員会：金田昌司（委員長）、秋山道雄、富樫幸一、林 上、森川 滋、山川充夫、吉津直樹